

ハ、教育を受けたる者の数

ロ、図書館 本島には図書館の設備なし。

普	日	新	新	普	新	就	日	信	義	期	永	永	育	登
昌	進	成	興	成	明	進	新	成	成	成	興	明	英	源
塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	男	男	男
三	一	一	一	二	一	二	一	一	二	二	一	一	四	三
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	男	男	男
一	五	八	四	一	五	七	六	三	五	六	二	二	一	八
二	〇	五	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

生活状態調査

光	辛	以	新	進	三	新	温	普	新	私	私	私	私	楸	朝
鮮	西	文	興	興	省	進	新	成	進	立	立	立	立	子	天
塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾	塾
男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女
二	二	二	一	一	一	一	一	二	二	三	四	四	四	四	一
女	男	男	男	男	男	男	男	男	男	女	男	男	女	女	女
二	九	〇	三	四	四	二	三	三	一	一	一	一	一	二	二
〇	二	〇	〇	〇	五	五	五	〇	〇	〇	六	四	六	九	六
同	同	同	同	同	同	同	同	同	里	財	同	同	里	同	同
									民	團			民		
									經	法			經		
									營	人			營		

大學校及専門學校卒業

男 三〇人

中學程度卒業

男 四〇三人  
女 二〇人

普通學校卒業

男 五、六二六人  
女 三二〇人

從來の漢文書堂に於て修業のもの

男 二二、〇〇〇人

二、子弟教育費の負擔

輓近島民の教學心著しく向上し、公立普通學校、私立普通學校、普通學校の教科目を教授する改良書堂に就學する者約六千五百名にして、兒童一人年二十五圓を要し、尙ほ農業學校一校あり、これに在學するもの一百五十名、一人平均年六十圓乃至百五十圓(百五十圓は所在  
地外の生徒とす)を要し、その他島外に留學するもの相當の數に達し、その數約百人にして、一人年約三百圓を要するやうである。島民は從來男女共に勤勉の風に富み、貧富の差著しからず、生活は比較的裕饒なるを認められ、島内兒童に對する教育費負擔は島民の經濟上大なる困難を認めざるも、島外留學者中には往々徒らに向學心に驅られ、資力なく留學するものありて、經濟上の困難を來すのみならず、中途退學の止むなきに至るものがある。

ホ、普通學校中途退學及び授業料滯納狀況

中途退學者數男五百二十七人、女六十八人

右は男女共主に家事の都合に依るもの多く、轉學者は大部分家庭の事情に基く轉居移轉に依るものである。

授業料滯納額 一百四十八圓六十錢

右の滯納金は主に解怠、及び内地渡航者あるを以て生じたるものである。

ハ、各種學校生徒卒業後の狀況

種別	就職者數	上級學校入學者數	無職者(家事従業)數
濟州公立農業學校	男 九 女 四〇	男 七 女 一四六	男 七 女 二六六
公立普通學校	男 六〇 女 六	男 一四六 女 一八	男 二六六 女 二六六
濟州公立小學校	男 同 女 同	男 一 女 一	男 三二 女 三二

ト、國語解得鮮人數

國語を解得する鮮人數は、その内地移住の増加と、教育の普及に伴ひて、年々著しく増進しつつあるが最近に於ける調査ではその數は左の如くなつて居る。

種別	男	女
稍々解得し得るもの	一萬一千三百八十八人	九百三十七人
普通會話に差支なきもの	三千三百四十四人	百三十九人

四、文化

生活状態調査

チ、新聞雜誌購讀者數

二千三百人

右は濟州島各面を通じての數である。

リ、巷間に多くの讀者を有する書籍

沈清傳・忠烈傳・三國誌・獄中花・百方秘訣・四柱自解・行年秘訣・其他は無し。  
 ス、音樂・圖書・繪畫・骨董等に關する趣味 特記事項なし。

儒生調

本貫	姓別	儒生數	本貫	姓別	儒生數
竹山	安氏	二五三	陽川	許氏	六五
順興	安氏	一九八	延州	玄氏	三三五
坡平	尹氏	四一	原州	元氏	一四
清州	韓氏	二七五	濟州	高氏	七九四
光山	金氏	七九八	南陽	洪氏	一三九
慶州	金氏	五二六	谷山	康氏	二八〇
羅州	金氏	四一五	軍威	吳氏	四一五
金海	金氏	四三三	和順	吳氏	一〇三

延安	金氏	五九	延安	車氏	八八
晉昌	姜氏	六七九	平山	申氏	四八
居昌	慎氏	九六	濟州	夫氏	一五三
南原	趙氏	一〇七	南平	文氏	三一四
昌寧	張氏	四二	密陽	邊氏	一一〇
仁同	張氏	九一	慶州	李氏	一五五
利川	徐氏	三四	全州	李氏	二八五
礪山	宋氏	九四	古阜	李氏	一五四
昌寧	成氏	二二	遼山	李氏	三一七
忠州	池氏	一三	豐川	任氏	四八
羅州	丁氏	一二	濟州	梁氏	八〇
東萊	鄭氏	九六	平澤	林氏	五六九
清州	鄭氏	八	平化	柳氏	一八
羅州	羅氏	三〇	計	九、〇三六	

尙ほ現在濟州島に於ける儒生中、中心人物と目せられて居るものは左の人達である。

金根著

前郡參事、前金羅南道評議員  
 現漁業組合理事、現儒道彰明會副會長

四、文化

金 基 銖	前郷廳庶首 現濟州文廟直員
姜 斗 奎	前濟州中面長 現大靜文廟直員
康 鶴 瑞	前旌義文廟齋長 現旌義文廟直員
金 翊 洙	現濟州文廟訓長 現私立日新學校長
金 宜 鍾	前大靜文廟直員
吳 箕 南	前旌義文廟直員 現文廟訓長

信仰

濟州島に行はる、宗教は佛教・基督教にして、佛教は往時盛んなりしも、李朝の時代に至りて衰微し、現今に於ては漢拏山の中腹に禪宗教宗の兩宗に屬する觀音寺と稱する一宇あり、濟州城内にも同寺の布教所あり、専らその布教に従事して居る。また同島に在住せる内地人の爲めに、濟州城内に本願寺布教所あり、内地人の僧侶が布教に従事して居るが、信徒の數は僅少である。

基督教は長老派・天主公教・安息教に屬するものあり、長老派は近時最も旺盛にして、濟州城内に宏壯なる禮拜堂を設け、島内各地に布教所又は禮拜堂を有して居る。

天主公教は今より三十餘年前に本島に入り込み、濟州城内に教會堂を設け、佛人宣教師駐在して布教に従事し、信徒の増加を圖つたが、その後布教に關し大なる争亂あり、當時外國人の治外法權なりしたため、無賴の徒はこれを幸とし、外人宣教師の蔭に隠れ横暴を極めたるを以て、一般良民は本教徒を憎惡する念強烈となり、遂に大靜の李才秀等首魁となり、民衆を率いて濟州城内を包圍し、飲料水の途を斷ち、これが爲め窮して城門を開くや、暴民一時に殺到して、六百餘名の教徒を殺戮するの大慘事を起し、爾來同教徒はその數を減少し、勢力衰微して居る。尙ほ英國系に屬する第七日安息日再臨教あるも、その勢ひ微々として振はず、牧師なく傳導師のみにて布教に従事して居る。

布教状況表 (昭和元年末現在)

區分	寺院又は布教所數		僧尼布教者數		信徒數	
	内地人	朝鮮人	外國人	計	内地人	朝鮮人
神道	1	1	1	1	3	3
佛教	1	1	1	1	3	3
	1	1	1	1	3	3
基督教	1	1	1	1	3	3
	1	1	1	1	3	3
計	1	1	1	1	3	3

島内到處所に古木老樹多くこれに關する迷信傳説も盛んに行はれて居るが、各部落の入口または橋畔等には石像の彌勒佛あり、これを信仰するものも頗る多いやうである。

尙ほ宗教類似團體の活動を見るに、大正七、八年頃より島内に彌蔓しつゝ、ありし普天教(元名仙導教)はその後一時信徒の數を増し大約二萬と稱せられて居た。しかしながらその教義には首肯し難き點あり、當局はこれを目して狡猾漢及び時世に不平ある分子が、愚民を迷信に陥れ、私利を圖るにありと認め、警察官署及び而と協力し、且つ民風振興會並に儒生團を督してその弊害除去に努めて來た。然るに數年間秘密結社として暗中活躍をなし、築き上げたる勢力は容易に抜き難かつたのであるが、その後漸次時勢の進運に伴ひ、信徒の自覺を喚起し、今や殆んどその影を没するに至つたやうである。由來島民は人智蒙昧の徒多きを以て、迷信の風は盛んなるものあり、巫女、祈禱者や、賣卜者の言を信じ、吉凶禍福を卜ひ、これ等に祈禱を依頼する者は尠少でないのである。

巫女、賣卜者、祈禱者分布調

(昭和四年九月末現在)

面別	巫女	賣卜者	祈禱者	面別	巫女	賣卜者	祈禱者
濟州	四五	二六	一四〇	大靜	八	四	二五
新右	一八	八	三七	中	一一	二	三二
蔚右	三四	一四	五六	左	三	一	一五

右	中	西	東	旌	計
一四	四	一〇	一一	一一	一九〇
五	一	二	二	一	七四
一八	一三	一五	一五	一〇	四一六
九	新左	一	一	一	一
三	九	六	四	一	二
二二	二八	二	二	一	二

備考 祈禱者中には巫男(巫女と全く同様なもの)を含む。

選舉

濟州島に於ける民度竝に文化の程度は概して低きを以て、權利を主張する念も一般に強からず、従つて選舉に對しても割合に冷淡なる者多く、棄權率は相當に高いのである。今試みに最近に行はれたる道評議員、學校評議員、濟州面協議會員の選舉に於ける投票状況を左に示して見やう。而して棄權者の特に多い理由の中には、無筆者の多いこと、選舉人の職業的關係上、或は海上に出で、漁業を爲しつゝあり、或は内地へ出稼中である、といふやうなことも、考慮に入れて置かねばならない。

選舉有權者並に投票者、棄權者數調

イ、道評議員 (大正十五年十月)

選舉有權者數

一五四名

内地人 六名  
鮮人 一四八名



生活状態調査

投票者数	九八名	内地人	六名
棄権者数	五六名	全部鮮人	九二名
口、學校評議會員 (大正十五年十月)			
選舉權者数	一四八名		
投票者数	八二名		
棄権者数	六六名	全部鮮人	
ハ、濟州面協議會員 (昭和二年五月)			
選舉權者数	二四五名	内地人	一三名
投票者数	一四六名	内地人	二三名
棄権者数	九九名	内地人	一三名
		鮮人	一五名
		内地人	二名
		鮮人	七名

犯罪

濟州島に於ける犯罪状況を見るに、朝鮮特有の犯罪たる窃盜件数の多いことは同様であるが、傷害件数の多いことは、大に目立つて居る。その原因は文化の程度低く、且つ漁業地の多い關係上、一般に人心粗

暴なるに基くこと、思はれる。また詐欺、横領、文書偽造等の犯罪が近來増加しつゝあるは、人智の漸く開け、交通の頻繁となりたるに影響する所が尠くないと信せられる。今試みに最近五箇年間の主要犯罪發生件数を示せば左の如くなつて居る。

犯罪發生件數五箇年對照

罪名	大正十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
文書偽造	一三	五	二	二一	二二
賭博	九八	九〇	九八	七〇	六五
狼狽、姦淫、重婚	一一	九	一三	一〇	七
殺人	一一	一	一	一	三
傷害	一三二	一五四	二四八	一四一	一六三
強盜	一	一	一	一	一
窃盜	一七七	一九四	一〇九	九八	一四六
窃盜	七六	五五	八五	九九	九一
詐欺	九	七	一一	五	二
横領	三六	二八	五三	四八	七〇

衛生

氣候風土の宜しきにもよらうが、濟州に於ける衛生状態は、頗る良好にして、傳染病、及び特種の疾

病、風土病等は殆んどない。殊に大正九年中流行せる虎疫の惨禍は、深く島民をして傳染の恐るべきこと、及び衛生上注意の緊要なるを自覺せしむるを得たやうである。島及び警察官署に於ては、將來往年の如き惨禍を再び繰返さざらんことを期し、面長をして衛生會を組織せしめ、衛生に關し共同施設の實行を爲さしめて居る。而して島内衛生機關は左の如くなつて居る。

衛生機關一覽表 (昭和元年末現在)

區分	醫院數	醫師	醫生	藥劑師	產婆	看護婦	種痘施行員	製藥者	藥商業
道立濟州醫院	一	一	一	一	一	一	一	一	一
内地人	四	一	一	一	三	七	一	一	二
朝鮮人	一	四	二二	一	一	二	二	一	一三三
計	一八	二二	一	四	九	三	一	一三五	

島内到處の地盤は岩質の爲め、井戸の掘鑿不可能にして、飲料水として適當なる水を得ることの難きは、衛生上頗る遺憾とする所なるも、簡便にして適當なる方法を以て、當分現狀に委するの外なき状態に在る。人口最も多き濟州城内に於ては、相當良質の飲料水豊富に湧出するの天恵を有し、これが同地をして遂ひに島内第一の都邑とならしめた原因であらうと思はれる。また右面西好里に於ては簡易水道を敷設し、同里内は勿論附近の諸部落まで給水して居る。概して海岸地帯は干潮時に於ては所々に湧水を見るも、中間部以上の地點は殆んど飲料水を得るに困難を感じて居る。

## 五、生 計

### 貧 富 の 程 度

濟州島は莞島や珍島など、同じく、各人の富の程度がよく平均して居り、大資産家は多くないが、また極貧者も少く、乞食の如きは島民中には殆んどないやうである。これは農家に自作農が多く、漁業、その他の副業収入の多い關係もあり、また漁民は年中相當の収入あり、加ふるに内地への出稼の盛んなる等、經濟上有利なる條件を備へて居るが、一般に男女共勤勉にして、簡素なる生活に慣れ、殊に女子の勞働に勵むことは、その家計を安定せしむる所以であらう。今試みに各面別の資産家及び貧民數の分布状態を見ると左の如くなつて居る。

#### 資産家數及び貧民數調

面 別	資 産 家 數			貧 民 數		
	一萬圓以上	五萬圓以上	十萬圓以上	細 民	窮 民	乞 食
濟 州	三五	五	二	四五〇	六五	六
五、生 計					一五九	

生活状態調査

新	右	八	一	七五	二〇	二
舊	右	四	一	一三〇	三五	四
大	靜	九	一	一〇〇	二五	一
中	中	三	一	八〇	一〇	三
左	中	三	一	一五〇	三〇	一
右	中	九	一	六〇	二〇	一
西	中	三	一	六五	一五	二
東	中	〇	一	七〇	二〇	四
旌	義	四	一	一五〇	二五	一
舊	左	三	一	一二〇	一〇	二
新	左	一〇	一	三七〇	五〇	一〇
楸	子	一	一	一八五五	三三四	三八
計		一〇二	一〇	三	一、八五五	三三四

備考 表中貧民數欄に計上せしを食は、本島民に非ずして殆んど島外より來住せし者なり

農家の收支

一般島民は粗衣、粗食に甘んじ、孜々として勞働に従つて居る結果、他の地方の農家に比較すると、多少生活上餘裕があるやうに見える。即ち大正十五年に於ける農家の收支に就き、濟州島廳の調査した所を見るに、地主、自作農、自作兼小作、小作農、窮農の各階級とも、多少づゝの收入超過となつて居るのは他の地方に於て小農經濟の窮迫せる今日、聊か異例の感がある。

農家收支調 大正十五年

區別	收 入				支 出				差 引	備 考											
	收	獲	副	業	計	耕	作	生			活	諸	公	課	小	作	料	雜	支	出	計
大	1,031.00	57.00	207.00	1,815.00	2,040.00	6,023.00	2,248.00	3,775.00	2,267.00	1,508.00	6,333.00	1,333.00	633.00	1,333.00	633.00	1,333.00	633.00	1,333.00	633.00	633.00	濟州面 宋澤蘇外四人
中	557.70	157.70	73.70	789.10	2,678.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	3,167.00	同 康芝津外七人
小	318.60	50.00	7.00	375.60	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	4,375.00	同 姜渭善外八人
細	1,840.00	26.70	207.00	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	2,073.70	同 金基錫外六人
大	3,247.60	470.60	66.30	3,784.50	7,496.00	1,915.00	2,033.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	3,948.00	同 金容河外七人
中	3,292.90	409.90	33.00	3,735.80	4,645.00	2,665.00	2,033.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	5,313.00	同 張永祥外七人
小	1,676.90	26.90	25.00	1,728.80	2,228.00	1,100.00	703.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	3,331.00	同 高平松外七人
細	833.30	55.60	33.30	922.20	1,100.00	977.00	365.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	1,472.00	同 高斗照外七人
大	3,635.00	26.00	207.00	3,868.00	4,000.00	1,100.00	1,100.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	5,200.00	同 高信良外六人
計																					

五、坐 計

一六一



第 農	農作小			兼作小			農作中	農作大	農作中	農作大	農作中	農作大
	細	小	中	細	小	中						
九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇
九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇
九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇	九・〇〇

農家生計状態

尙ほ農家生計状態に關し、濟州島内の四金融組合が、その區域内の農家に就き調査した所に據ると、左表の如くなつて居る。而してこの調査を通じ、大體に於て、島内には大農及び小作農の少きこと、副業収入の割合に多きを知ることが出来る。而して左の調査中、一、収入額は本業収入額（小作農に在りては小作料を納付せる残額）及び副業収入額の合計額を掲げ、二、支出額は本業、副業に關する諸材料費、食費、被服費、公課、學費、冠婚葬祭費、その他の生活費の合計額を掲げてある。

農家生計收支状態 (其一) 濟州金融組合

區別	自		兼作小		自		兼作小		區別	耕作段別	家族員數及び同居の雇人	収入額	支出額	差引收 △支過 △不足	被調査者住所	氏名
	中農	小農	中農	小農	中農	小農	中農	小農								
備考									自作	兼作						
小作農大農なし									同上法	同上法						
本業及び副業收支根基概要									小作	自作						
									同上法	同上法						
									耕作に	耕作に						
									従事す	従事す						
									ざる者	ざる者						
									収入額	支出額						
									△支過	△不足						
									被調査者住所	氏名						

區別	種別	收穫量		小作料		自家用		販賣若しは △買入額		種別	生産高		自家用		販賣若しは 線越高		被備 勞役 収入	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額		數量	價額	數量	價額	數量	價額		
五、生 計	作畝 麥 稻	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	

農家生計收支狀態 (其二) 慕瑟浦金融組合

農 作 小											
細農			小農				中農				
作田		作畚	作田		作畚	作田		作畚			
其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	麥	稻	
六石	六石	三斗	八	六石	七斗	二〇升	八	三石		三〇〇斤	
四	六	四	六	六	〇	一〇	六	六	四	三〇	
三	三	一	三	三	三	五	四	四		一五〇	
六	三	二	二	三	五	五	三	四		一五	
三	三	一	四	三	三	五	四	四	三石	一五〇	
四	三	二	三	三	五	五	三	四	四	一五	
一			一				二				
八			八			六					
帽鮮人			棉花 帽鮮人				棉花 帽鮮人				
	六個			五斤	五個			一〇斤	七個		
	三			四	五			九	五		
								四			
								三			
	六			五〇	五〇			六	七		
	三			四	五			六	五		
	四										

農作小兼作自											
小農			中農				自農作				
作田		作畚	作田		作畚	作田		作畚			
其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	麥	稻	
八	七石	五斗	五	二石	六斗	三〇升	九	九	五斗	三〇〇斤	
六	七	八	三	二	九	三	六	五	九	二	
四	三	五	五	五		一〇					
三	三		四	五		五					
四	四		八	五		一〇	七	九	五	一	
三	四		七	五		一五	六	九	九	一	
			二			二					
			八			六					
帽鮮人 甘藷			棉花 蔬菜				甘藷 棉花 帽鮮人				
	七個	一〇斤		三斤				一五斤	一〇個		
	三	一〇		三	八			一五	三	五	
		五		一〇				一〇	一〇		
		五		九	四			一〇	三		
	七	五		一五	一			五	一〇		
	三	一〇		三	四			五	五		

生活状態調査

區別	自作		自小		備考	小作農なし
	中農	小農	中農	小農		
耕作段別	自作	同上法	自作	同上法	家族員數及び同居の雇人	収入額
	小作	定地價	小作	定地價		
田	自作	同上法	自作	同上法	耕作に専事する者	支拂額
	小作	定地價	小作	定地價		
副業	生産高	同上法	生産高	同上法	販賣若は繰越高	被調査者住所
	自家用	同上法	自家用	同上法		
氏名						

(附表)

本業及び副業收支根基概要

區別	中農		小農		家自
	作田	作番	作田	作番	
本業	其他	麥	大豆	麥	其他
	數量	價額	數量	價額	數量
副業	養鶏	養豚	甘草	天草	養鶏
	數量	價額	數量	價額	數量

自作小農				中農				小農				農			
小農		中農		小農		中農		小農		中農		小農		中農	
作田	作番	作田	作番	作田	作番	作田	作番	作田	作番	作田	作番	作田	作番	作田	作番
其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	其他
六	四		六	五	一	三	七	一	三	七	一	三	七	一	三
四	元		二六	五	〇	一〇	四	〇	一〇	四	〇	一〇	四	〇	一〇
一・五	五斗		三	一											
〇〇・〇〇	〇・〇〇		六	七											
七	四		五	四	一	一五	六	一	一五	六	一	一五	六	一	一五
五	六		六	元	〇	一〇〇	四	〇	一〇〇	四	〇	一〇〇	四	〇	一〇〇
△	△					五	一		五	一		五	一		五
△	△					七			七			七			七
△	△					〇〇	七		〇〇	七		〇〇	七		〇〇
〇	〇														

農家生計收支状態 (其三)

西歸浦金融組合

五、生計

一六九

自作小兼農		中農		自作農		中農			
小農		中農		小農		中農			
作田	作畜	作田	作畜	作田	作畜	作田	作畜		
其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	其他	麥	大豆	
二石	二石	六斗	三石	八石	一石	六斗	一石	二石	
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	
六	三	一	四	二	一	一	一	一	
三	三	一	四	一	一	一	一	一	
八	七	一	四〇〇	六	一	四〇〇	九	一〇	
七	三	一	三〇	七	一	三〇	七	一〇	
三	一	一	二七	二	一	一〇	二	一	
三	一	一	二〇	一	一	一〇	一	一〇	
養蠶	養鷄	養豚	養鷄	養豚	養鷄	養豚	養鷄	養豚	
七斗	三羽	二頭	一斗	一頭	八羽	二頭	四斗	三羽	二頭
三	六	一	七	九	三	三	三	五	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

收勞出内 入役稼地

生活状態調査

本業及び副業收支根基概要

區別	種別	數量	金額	區別	種別	數量	金額		
本業	作畜	麥	一石	一〇〇	副業	養蠶	六斗	三〇	
		粳	一石	一〇〇		養鷄	一	一〇	
	納小作料	麥	一石	一〇〇		自家用	麥	一石	一〇〇
	自家用	粳	一石	一〇〇		生產高	養蠶	六斗	三〇
	家族員數及び同居の雇入	小農	一	一〇		自家用	養鷄	一	一〇
	中農	一	一〇	線賣若し		養豚	一	一〇	
	大農	一	一〇	越若し		養鷄	一	一〇	
	自作小兼農	一	一〇	被褥		養鷄	一	一〇	
	自作小兼農	一	一〇	收入		養豚	一	一〇	
	自作小兼農	一	一〇	支出		養鷄	一	一〇	
	自作小兼農	一	一〇	差引		養豚	一	一〇	
	自作小兼農	一	一〇	不足		養鷄	一	一〇	
	自作小兼農	一	一〇	被調査者住所		養豚	一	一〇	
	自作小兼農	一	一〇	氏名		養鷄	一	一〇	

一六八

(附表) 本業及び副業收支根基概要

區別	種類	收穫量		小作料		自家用		販賣若は繰越若は		備考
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
區別	種類	自作		自作		自作		自作		區別
		中農		中農		中農		中農		
		小農		小農		小農		小農		
		兼作小農		兼作小農		兼作小農		兼作小農		
自作		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		耕作段別
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
小作		小作		小作		小作		小作		
小作		小作		小作		小作		小作		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		家族員數及び同居の雇人
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		被調査者住所
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		氏名
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		城山浦金融組合
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		氏名
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		氏名
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		

生活状態調査

區別	種類	收穫量		小作料		自家用		販賣若は繰越若は		備考
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
區別	種類	自作		自作		自作		自作		區別
		中農		中農		中農		中農		
		小農		小農		小農		小農		
		兼作小農		兼作小農		兼作小農		兼作小農		
自作		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		耕作段別
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
小作		小作		小作		小作		小作		
小作		小作		小作		小作		小作		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		家族員數及び同居の雇人
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		被調査者住所
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		氏名
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		
同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		同地上法		

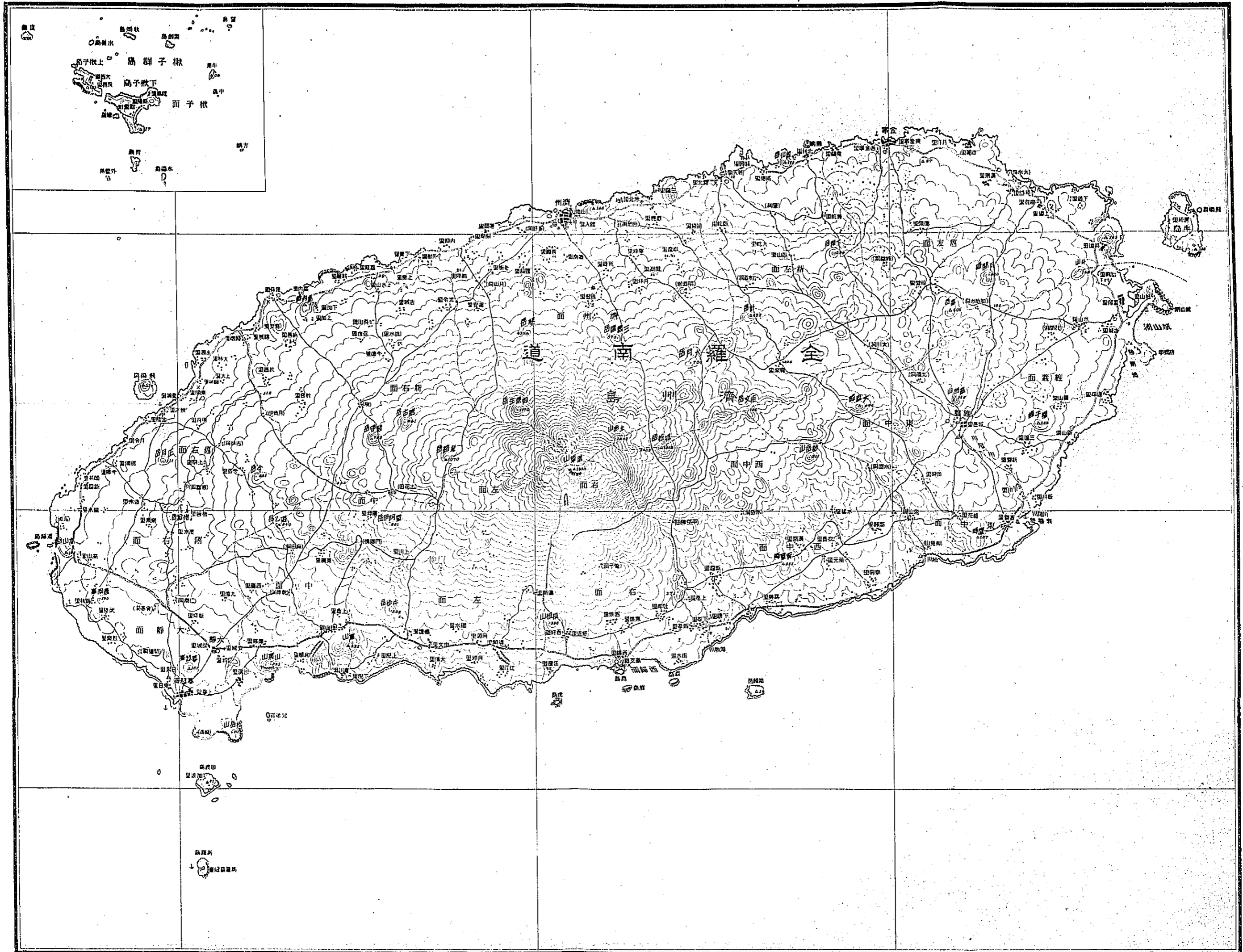


農作小兼作自												農作自											
小農						中農						小農						中農					
作田			作畚			作田			作畚			作田			作畚			作田			作畚		
其他	麥	大豆	麥	稻	其他	麥	大豆	麥	稻	其他	麥	大豆	麥	稻	其他	麥	大豆	麥	稻	其他	麥	大豆	
六	四	一			三	八	二			五	三	一			五	三	三			五	三	三	
六	三	三			三	四	三			六	六	三			一	六	三			一	六	三	
三	二				五	三																	
三	三				六	六																	
三	二				七	五	二			五	三	一			八	五	二			八	五	二	
三	三	三			七	三	三			六	六	三			八	三	三			八	三	三	
															七	八	一			七	八	一	
															七	八	一			七	八	一	
其他			其他			其他			其他			其他			其他			其他			其他		
	三	六				三	三				三	三				三	三				三	三	

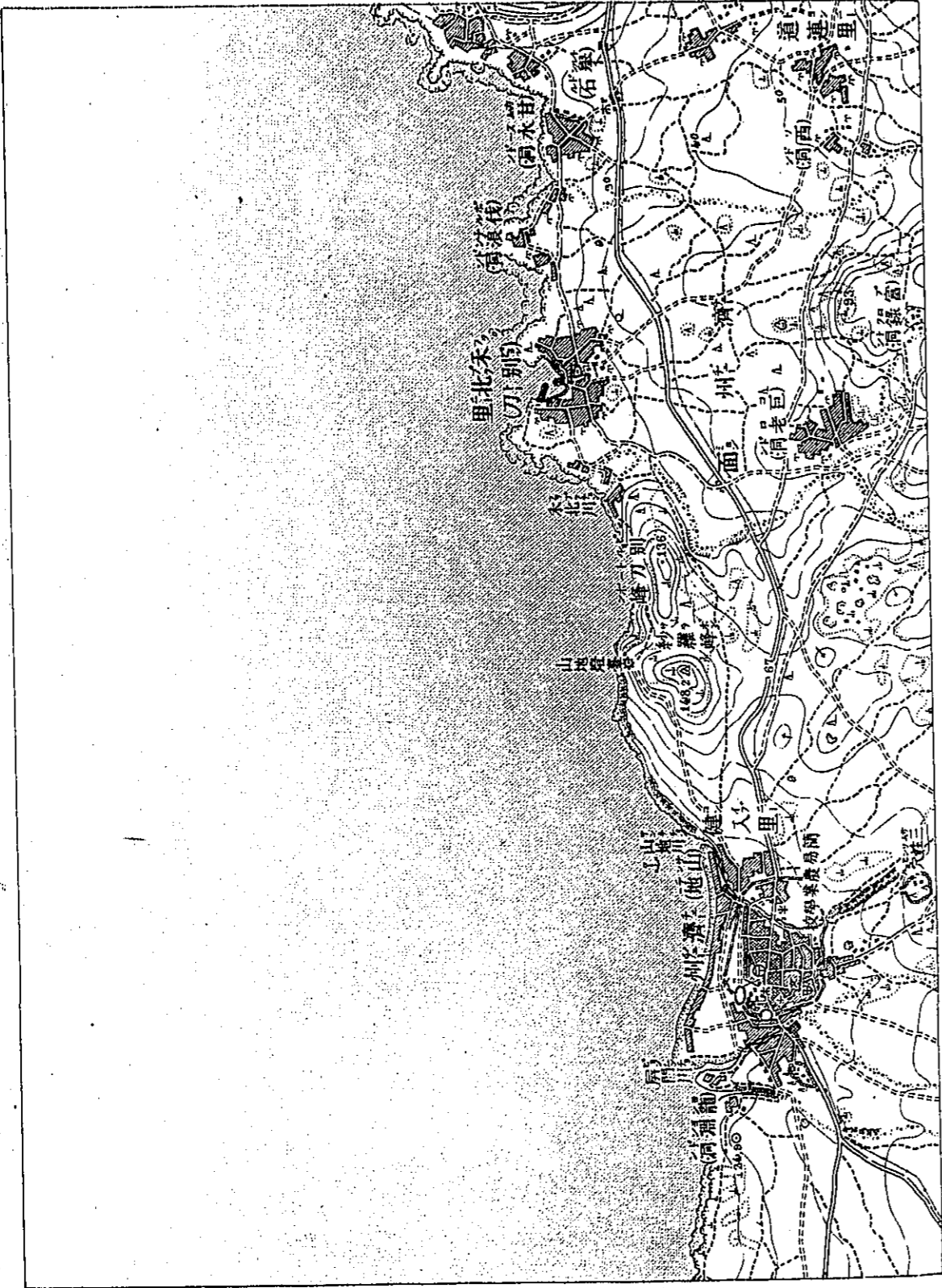
貧富の程度、農家の收支、農家生計状態の三調査を通じ、濟州島に於ける一般の生計状態が、他の市街地平野、山地帯などに比較して窮迫の度の少く、島民は簡素ながらも概して餘裕ある生活を営んで居ることが認められる。而してこれが主なる原因は、同島が氣候溫暖にして、比較的天産に富んで居る上に、社會組織が複雑でなく、生活様式も簡單であり、他の諸地方の如く貧富の懸隔が著しからず、富の程度が割合に平均して居り、島民は經濟上自給自足の觀念強く、島嶼特有の半農半漁の住民多きと、農業上副業生産の發達し、男女共に勤儉にして特に女子の勞働に勵み、且つ内地出稼の風盛んなることが與つて大なるもの、やうに思はれる。

生活狀態調查(其二)濟州島終

# 島 州 濟

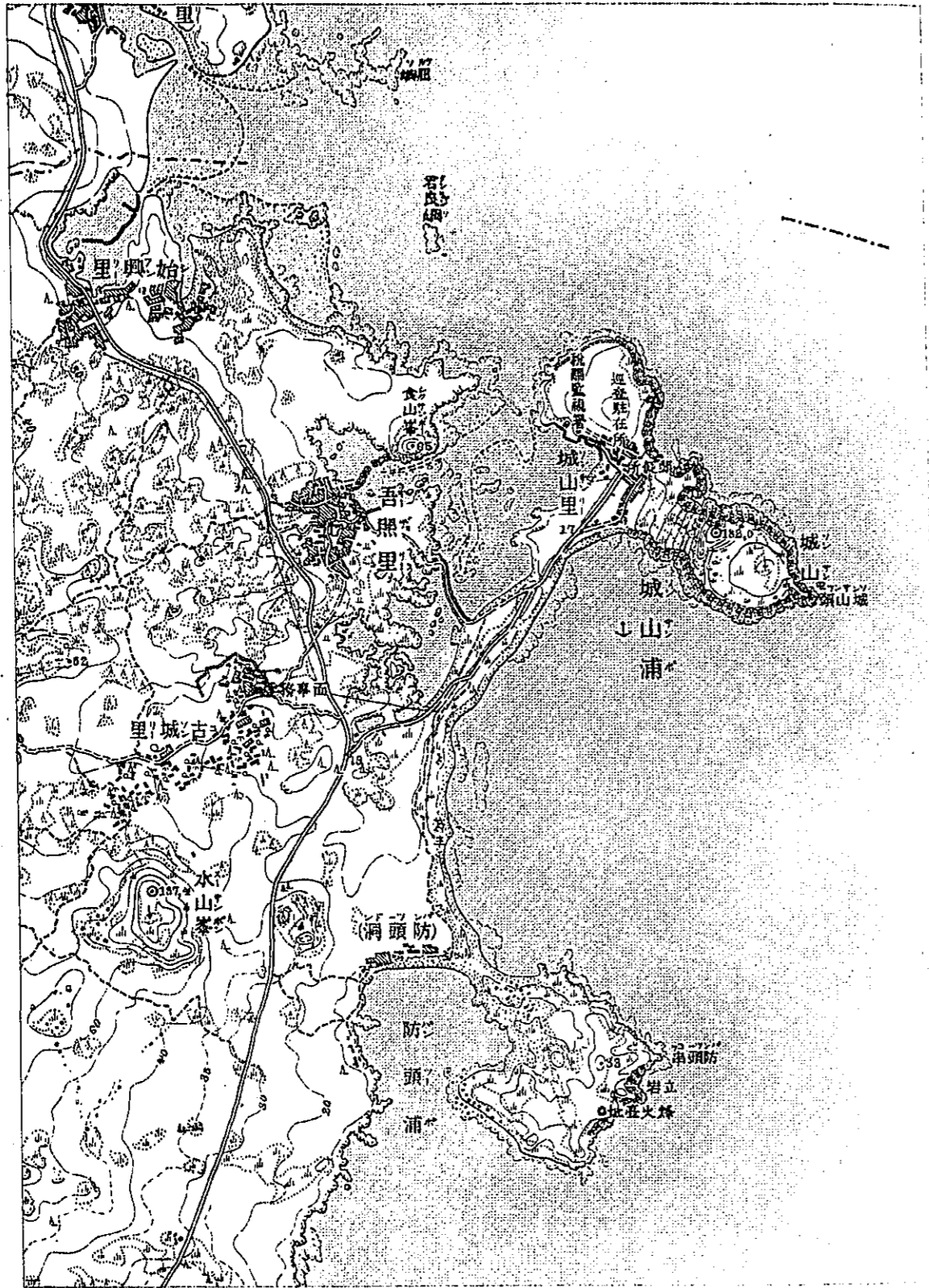


近 附 の そ び 及 州 濟



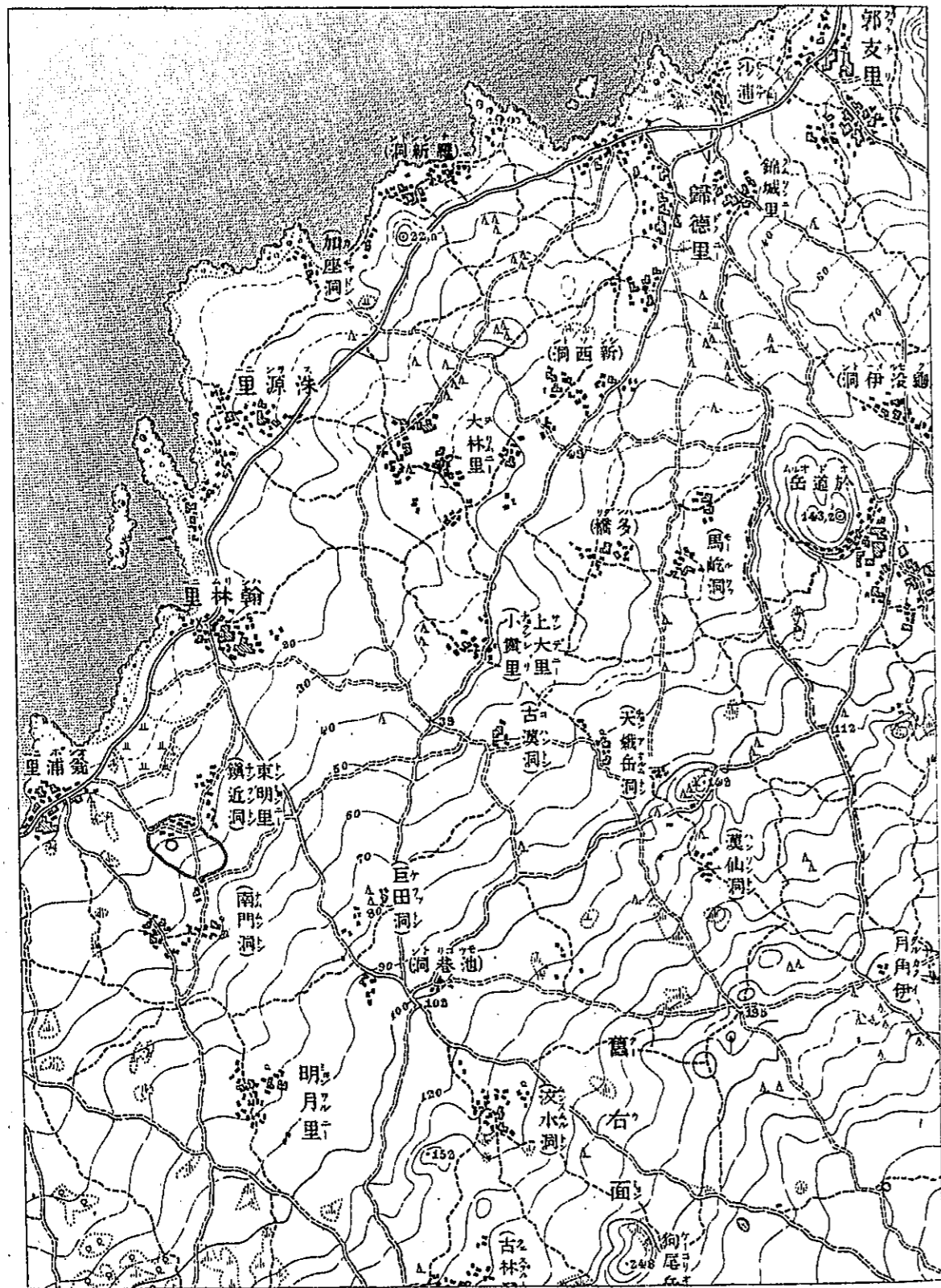


近附のそび及浦山城





近附のそび及林翰



西歸浦及びその附近

